

A study of the participant satisfaction of the multi sports club:  
in the WASEDA Club 2000

1K08B184-8

星 雄之

指導教員 主査 木村 和彦 先生

副査 宮内 孝知 先生

### 【目的】

本研究では、ワセダクラブ 2000 の中から陸上競技クラブに焦点を当て、クラブ会員のスポーツ活動に対する期待度と満足度について計測し、現状および会員が総合型地域スポーツクラブに何を求めているかを明らかにし、今後のクラブ運営において、質の向上を目指し分析・考察することを目的とする。1 種目のみに焦点を当てる理由としては、総合型地域スポーツクラブの特徴として「多種目」の側面があるが、同じクラブであっても種目ごとに違った特徴があると考えたためである。そしてその中で陸上競技クラブにした理由は筆者が実際に 4 年間指導に携わってきたからである。

### 【方法】

調査は 2 つ行い、アンケート調査は留置法による質問紙調査を行った。対象は、陸上競技クラブの参加者である。調査は平成 23 年 11 月 6 日と 13 日に実施した。また、インタビュー調査としてグループインタビューによる調査を行った。対象は、陸上競技クラブの参加者である。調査は平成 23 年 11 月 27 日（日）に実施した。

### 【結果】

アンケート調査の結果は、期待度では、「専門の技術向上」が 4.36 と一番高く、「体力づくり」が 4.26、「健康の保持・増進」が 4.09、そして「仲間作り」が 3.79 と続いた。反対に期待度が低かったものは「礼儀などの人間形成」であり、3.32 となり、次に「社会性・集団行動を理解すること」が 3.38、「幅広い年代とコミュニケーションをとること」が 3.45、「地域全体に対しクラブへの関心を高めること」が 3.51 となった。

満足度では、「専門の技術向上」の項目の満足度が 4.23 と一番高く、「健康の保持・増進」が 4.06、「体力づくり」が 4、そして「仲間作り」が 3.85 と続いた。

また、満足度から期待度を引いた差を算出した結果、「体力づくり」が -0.26 と一番低い項目となった。次に「地域全体に対しクラブへの関心を高めること」が -0.19、「専門種目の技術向上」と「多種目への参加」が -0.11 となった。

インタビュー調査では、会員は「体力づくり」や「専門種目の技術向上」といった個人的レベルの項目に関しては、具体的な要望を持っているものの、集団的レベルのものに関して言えば、「コースを跨いで多世代のコミュニケーションの場として活用すること」を求めているたり、「近隣の人たちへのアピール度は低いかもしれない」といった問題意識もわずかながらではあるが垣間見ることができた。

また「技術指導」や「フォーム改善に対する何かがクラブの中であつたらいいと思う」といった要望も見られた。このクラブの特徴として早稲田大学競走部の現役の学生が指導に当たっているが、スタッフとして単に練習メニューを提供することに留まらず、その中でフォームのことについてなど技術的な面での指導も増やしていくことで更なる満足度の向上につながるだろう。

### 【考察】

調査をもとに分かった会員の特性として、総合型クラブの特徴の一つである「多世代」と交流できるコミュニティとしての機能があまり求められておらず、「体力作り」「健康の保持・増進」等、個人的レベルのものが強く求められている傾向にあり、ワセダクラブ 2000 陸上競技クラブは、「スポーツ教室」として会員に捉えられている側面が大きいと考えられる。つまり総合型地域スポーツクラブとして、国民のスポーツ実施率の向上には貢献できると考えられるものの、世代間交流等の地域社会の活性化や地域住民の意識変革といった地域コミュニティの核としての側面は乏しいといえる。

今回の研究において、改めて総合型地域スポーツクラブの在り方や存在意義等に触れ、単に著者が所属している総合型クラブをよりよい存在にしたいという要望だけでは留まらず、日本にとっての総合型地域スポーツクラブの必要性についても考えさせられた。総合型地域スポーツクラブの在り方は 1 つではないと考えている。この研究が今後の更なる研究に寄与することと考える。